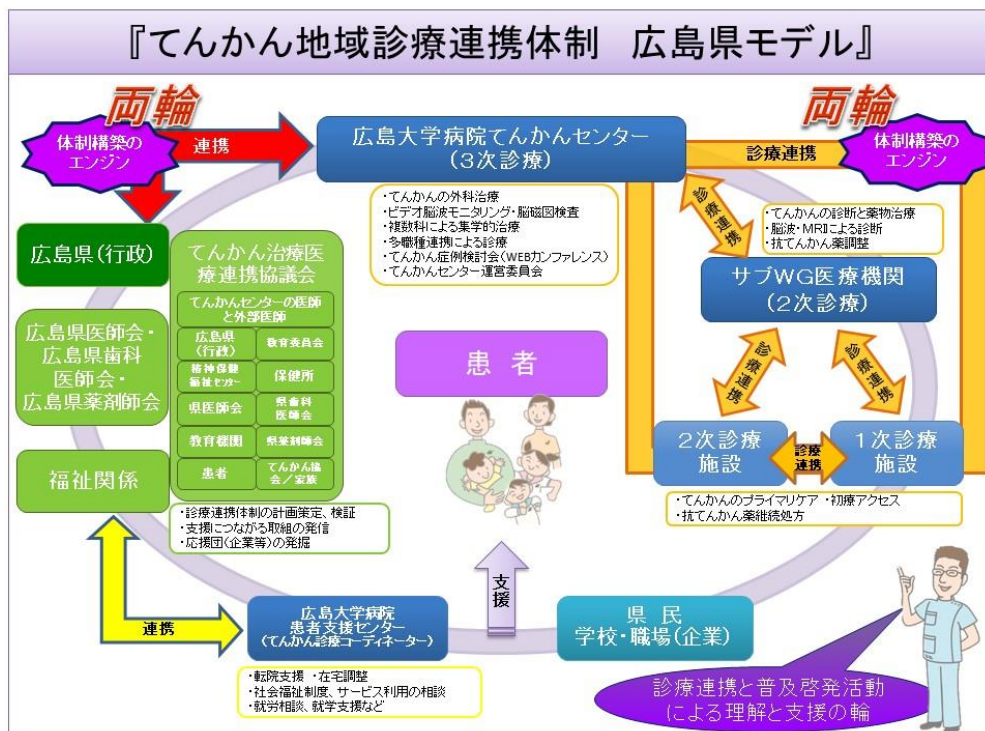


2 5. 広島県てんかん地域診療連携体制整備事業（2022 年度）

広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治

まとめ

- てんかん治療医療連携協議会およびサブワーキンググループを設置し、引き続き診療連携体制の構築について検討を行っている。また、事業効果の検証として、広島大学病院において指標に基づくてんかん患者調査を継続して行っている。
- 研修・普及啓発活動では、教育関係者向け研修会 12 回（特別支援学校 8 回、普通学校 4 回）、医療従事者向け研修会 1 回、行政関係者向け研修会 1 回の計 14 回開催し、てんかん疾患の正しい知識や最新情報の伝達、てんかん診療の質の向上および啓発を図った。今年度は現地開催が主体となったが、オンライン併催のハイブリッド形式で開催したセミナーでは全国から参加者があり、広島県の活動を全国的に周知することができた。今年度の新たな取り組みとして、教育関係者向け研修会でセミナー参加者に対してアンケート調査を実施し、参加者の意見やニーズを把握しセミナーの必要性や具体的な要望を確認することができた。
- 本事業推進の方向性を分かりやすく周知するために「広島県モデル」を作成し実施している。このモデルの特徴は、広島県（行政）と医療機関（特にサブワーキンググループ医療機関（2 次診療））を体制構築のエンジンとして、患者を中心にこの両輪で多職種連携を回している点である。広島県（行政）との連携では、県ホームページでの普及啓発活動の告知など患者支援につながる取組み発信や、県職員を対象とした研修会でのてんかんテーマ企画の発



案および実行などの協力を得ている。

1. 活動報告

1) てんかん治療医療連携協議会

てんかん治療医療連携協議会では事業計画の策定、事業効果の検証などを行っている。

委員数：16名

構成：医師5名（広島大学病院医師4名，外部医師1名），医師会1名，歯科医師会1名，薬剤師会1名，てんかん患者1名，てんかん患者の家族1名，行政関係者5名，医療福祉大学関係者1名

開催回数：2回（R4/5/13 WEB開催，R5/3/17 WEB開催予定）

2) てんかん治療医療連携協議会サブワーキンググループ

サブワーキンググループではWEBカンファレンスでの症例検討，連携体制の仕組作りの検討を行っている。

委員数：13名

構成：広島大学病院医師4名，2次診療施設（全保健医療圏の中核となる医療機関）9名

開催回数：2回（R4/6/15 WEB開催，R5/2/15 WEB開催）



3) 遠隔てんかん症例検討会

広島大学病院てんかん症例検討会では，てんかんセンターの複数診療科の医師と看護部，薬剤部，診療支援部，および臨床研究開発支援センターなど組織横断的に人員が参加して，症例検討，治療方針の決定を行っている。

症例検討会はWEB会議システム（Zoom）を利用して遠隔カンファレンスで行っており，サブワーキンググループ医療機関のみならず県内外の医療機関からの参加があり，広島大学病院との間で症例発表，検討を行うことで，てんかん診療のレベルアップとてんかん診療ネットワークの構築を図っている。

（R4/4月～R5/2月開催分）

参加人数：計400名（広島大学病院209名，サブWG医療機関67名，その他医療機関191名） 症例提示数：28症例

4) 研修会

① 教育関係者向け研修会

- ・てんかんを持つ児童の教育現場（特別支援学校）において，てんかん発作への適切な対応や最新治療法の情報共有を行うため，広島県内の特別支援学校にて研修会を開催した。

開催回数8回（内，オンライン開催1回） 参加人数：計453名

- ・学校保健大会や広島県連合小学校長会の協力を得て，普通学校（小・中）の

教職員，養護教諭などを対象として，「てんかん理解のために」をテーマにててんかん疾患の基本と発作への対応について研修会を開催した。

開催回数：4回（オンライン併催） 参加人数：181名

② 医療従事者向け研修会

- ・医師，臨床検査技師を対象とした「てんかん脳波セミナー」を開催し，脳波判読技術のレベルアップとてんかん診断の質の向上を図った。

開催回数：1回（LIVE同時配信）参加人数：232名（内LIVE視聴206名）

③ 行政関係者向け研修会

- ・広島県健康福祉局の職員を対象とした人権問題研修会において，てんかんに関する理解と支援について研修講演会を開催した。

開催回数：1回（オンライン配信）視聴人数：323名

教育関係者向け研修会				
開催日	研修会名	場所	研修内容	参加人数
R4. 7. 26	特別支援学校研修会	広島県立呉南特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	83名
R4. 7. 26		広島県立三原特別支援学校	てんかんの分類と症状・発作対応について	60名
R4. 7. 29		広島市立黒瀬特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	70名
R4. 7. 29		広島県立呉特別支援学校	てんかんを理解する～てんかん児童・生徒の医療的ケアについて～	39名
R4. 8. 1		広島県立福山特別支援学校	てんかんを理解する～てんかん児童・生徒の医療的ケアについて～	80名
R4. 8. 2		広島県立呉特別支援学校	てんかんの分類と症状・発作対応について	11名
R4. 8. 2		広島県立広島北特別支援学校	てんかんの分類と症状・発作対応について	70名
R4. 8. 24		広島県立廿日市特別支援学校	てんかんを理解する～てんかん児童・生徒の医療的ケアについて～	40名
R4. 10. 6		普通学校研修会	安芸地区学校保健大会	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～
R4. 12. 22	広島市立比治山小学校		「てんかん」理解のために～てんかん発作の見方・対応の仕方～	31名
R5. 1. 10	広島市立上安小学校		「てんかん」理解のために～てんかん発作の見方・対応の仕方～	19名
R5. 2. 8	広島市小学校校長部会		「てんかん」理解のために～てんかん発作の見方・対応の仕方～	20名

医療従事者向け研修会				
R4.10.1	てんかん脳波セミナー	広島県医師会館	てんかん学の講義，脳波判読の基本	来場 26 名 LIVE 206 名
行政関係者向け研修会				
R4.11.16	広島県健康福祉局人権問題研修会	広島県健康福祉局	てんかん疾患に対する正しい理解について	323 名 (オンライン配信)

5) 普及啓発活動

① 市民フォーラム

一般市民（地域住民），てんかん患者その家族を対象に，疾患に対する正しい理解と適切な治療を学ぶ機会として市民フォーラムを開催した。専門医による小児てんかんとライフステージ，てんかんの外科治療（ロボット導入と最新技術），てんかんと就労について講演を行い，質問へのアドバイスを行った。広島市での開催は YouTube による LIVE 同時配信を行った。

また，開催地を広島市内から地域へも広げ，2次保健医療圏域の廿日市市においても開催した。

開催回数：広島市 1 回（11/27 LIVE 同時配信）参加人数：172 名（内 LIVE 視聴 108 名）

開催回数：廿日市市 1 回（R5/2/4）参加人数：41 名



② J1 リーグサンフレッチェ広島とのコラボレーション

てんかん疾患に対する正しい理解を持ってもらうため，紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島と広島大学病院てんかんセンターがコラボレーションして，てんかん疾患の啓発活動を引き続き行っている。今年度はサンフレッチェ広島の森崎アンバサダーとてんかんセンター長との対談動画を広島大学公式 YouTube で公開（R4.4～），てんかんセンターホームページ，広島県ホームページ，日本てんかん協会広島県支部 Facebook にもリンクを掲載し，疾患啓発活動を広く周知



サンフレコロバ企画対談動画

した。

6) 事業の効果の検証（てんかん患者調査）

地域のかかりつけ医（1次診療）から、専門医（2次診療）、地域診療において中核を担う3次診療の三者が連携して、患者が適切なたんかん診療を受けられるよう「てんかん診療ネットワーク」を構築することを目的に、広島大学病院において平成27年（2015年）12月から7年間にわたり事業の指標に基づくてんかん患者調査を継続して行っている。

事業効果の検証として、調査開始3ヶ月（平成27年12月～平成28年2月）と直近3ヶ月（令和4年10月～12月）のデータを比較すると、広島大学病院を受診する初診目的では、薬物調整の割合が4%から26%へ増加、難治性の割合が5%から9%へ増加していた。また、広島大学病院が主たる病院として治療中の割合が77%から42%へ減少、広島大学病院が従たる病院として治療中の割合が9%から19%へ増加（※従たる病院とは、紹介元で薬物調整を行い広島大学病院へは定期的に通院している状況）、広島大学病院での治療を経て他の医療機関へつないだ（紹介した）割合が8%から18%へ増加していた。この結果から、広島大学病院がてんかん診療拠点としての役割を担い、広島大学病院での治療を経て紹介元や他院へ紹介し、日常の治療はかかりつけ医で行い、広島大学病院（3次診療）で定期的にフォローし患者に適切な診療を提供するてんかん診療ネットワークの構築が進んでいると考えられる。

2. 成果

今年度は教育関係者向け研修会開催の充実を図ることができた。特別支援学校教職員を対象とした研修会8回に加えて、従来から課題としてきた普通学校教職員を対象とした研修会4回（学校保健大会での研修講演会1回、広島県連合小学校長会の協力を得て広島市内小学校2回及び広島市小学校校長部会での研修会1回）の計12回開催した。

また、これら特別支援学校、普通学校での研修会において、参加者に対しアンケート調査を実施した。アンケート結果では、セミナー内容の理解度、満足度は概ね高く、教育現場で必要とされる発作対応・発作種類など実践的な内容や最新情報（治療薬・治療法）を紹介するとともに、疾患への正しい理解や啓発にもつながるセミナーであったことが示された。教育現場におけるてんかんセミナーの必要性及び具体的な要望を改めて確認できたことは大きな収穫となった。さらに、患者の受け皿としての医療機関のてんかん診療レベルの均てん化と地域診療連携体制の構築が平行して重要であることも示唆された。

今後は2次診療施設への普及啓発継続と、地域医師会を含む1次診療施設への連携を拡大し、てんかん診療連携をより強固な体制にすべく推し進めていきたい。